

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

合田産業株式会社 福山工場
 広島県福山市箕沖町64番地
 TEL : 084-959-6383 ・ FAX : 084-959-6384

配合計画者名 森 康一

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日、9月21日～12月10日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング 又はスラングフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	- kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスラング又はスラングフローの増大量	- cm
空気量	- %				

使 用 材 料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	-	
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %	-
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %	-
骨材	No.	種類	産地 又は 品名	アルカリ反応性による区分 試験方法	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³ 絶 乾 表 乾	微粒分量の 範囲%
細骨材	①	砕砂	愛媛県今治市大三島町肥海	A 化学法	5以下	2.80	2.59 2.64	7.0±2.0
骨材	②	砕砂(石灰)	大分県津久見市上青江	A モルタルバー法	5以下	2.80	2.63 2.66	7.0±2.0
材	③	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	碎石	愛媛県今治市大三島町肥海(2010)	A 化学法	20～10	7.00	- 2.72	0.5±0.5
骨材	②	碎石	愛媛県今治市大三島町肥海(1505)	A 化学法	15～5	6.30	- 2.72	0.5±0.5
材	③	-	-	-	-	-	-	-
材	④	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	マイティ1000S		AE減水剤(標準形 I 種)			Na ₂ Oeq %	0.9
混和剤②	製品名	-	種類	-			Na ₂ Oeq %	-
混和剤③	製品名	-	種類	-			Na ₂ Oeq %	-
細骨材の塩化物量	-		%水の種類	上水道水 回収水(上澄み水)	目標スラング 固形分率	-		
回収骨材の使用量	細骨材	-	粗骨材	-	スラング 水の使用方法	-		

配 合 表 kg/m³

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
327	-	-	175	333	503	-	533	438	-	-	2.78	-	-
水セメント比	53.5 %			水結合材比	- %				細骨材率	46.9 %			

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。
 J I S 該当品 骨材混合比 (容積混合) 砕砂：石灰砕砂＝40：60
 砕石2010：1505＝55：45

配合計算書

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	- kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
	空気量	- %			
(1)変動係数(v)			当工場の実績により v = 10.0 %		
(2)配合強度(m)					
$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 1.250$ $m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8 \text{ N/mm}^2$					
よって m = 33.8 N/mm ²					
(3)水セメント比(W/C) m = -13.21 + 25.22 × C/W					
$W/C = 25.22 \div (33.8 + 13.21) \times 100 = 53.5 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$ $\therefore W/C = 53.5 \%$					
(4)単位水量(W) 当工場の実績により W = 175 kg/m ³					
(5)単位セメント量(C) C = W ÷ (W/C) × 100 = 175 ÷ 53.5 × 100 = 327 kg/m ³					
Cv = C ÷ 密度 = 327 ÷ 3.04 = 108 ℓ/m ³					
(6)空気量(A) A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m ³					
(7)単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.615 m ³ /m ³ 実積率 = 58.0 %					
Gv = 0.615 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 357 ℓ/m ³					
G1v = Gv × 55.0 % = 196 ℓ/m ³ G1 = G1v × 表乾密度 = 196 × 2.72 = 533 kg/m ³					
G2v = Gv × 45.0 % = 161 ℓ/m ³ G2 = G2v × 表乾密度 = 161 × 2.72 = 438 kg/m ³					
(8)単位細骨材量(S) Sv = 1000 - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - 685 = 315 ℓ/m ³					
S1v = Sv × 40.0 % = 126 ℓ/m ³ S1 = S1v × 表乾密度 = 126 × 2.64 = 333 kg/m ³					
S2v = Sv × 60.0 % = 189 ℓ/m ³ S2 = S2v × 表乾密度 = 189 × 2.66 = 503 kg/m ³					
(9)細骨材率(s/a) s/a = Sv ÷ (Gv + Sv) × 100 = 46.9 %					
(10)単位混和剤量(Ad) Ad = C × 添加率 = 327 × 0.850 % = 2.78 kg/m ³					

配 合 表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
327	-	-	175	333	503	-	533	438	-	-	2.78	-	-
水セメント比	53.5 %		細骨材率	46.9 %			骨材混合比 (容積混合)	砕砂：石灰砕砂=40：60 砕石2010：1505=55：45					
備考													

レディー-ミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

合田産業株式会社 福山工場
 広島県福山市箕沖町64番地
 TEL : 084-959-6383 • FAX : 084-959-6384

配合計画者名 森 康一

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本配合の適用期間	6月11日～9月20日 (夏期修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ [®] 又はスランプ [®] フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	- kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空気量	- %				

使 用 材 料

セメント	生産者名 太平洋セメント株式会社	密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	-				
混和材①	製品名	種類	密度 g/cm ³	Na ₂ Oeq %					
混和材②	-	-	-	-	-				
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³	微粒分量の範囲%
				細	粗	①	②	③	④
骨材①	①	砕砂	愛媛県今治市大三島町肥海	A 化学法	5以下	2.80	2.59	2.64	7.0±2.0
骨材②	②	砕砂(石灰)	大分県津久見市上青江	A モルタルバー法	5以下	2.80	2.63	2.66	7.0±2.0
骨材③	③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(2010)	A 化学法	20～10	7.00	-	2.72	0.5±0.5
骨材③	③	-	-	-	-	-	-	-	-
骨材④	④	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	マイティ1000SR	種類	AE減水剤(遅延形I種)				Na ₂ Oeq %	1.0
混和剤②	製品名	-	種類	-				-	-
混和剤③	製品名	-	種類	-				-	-
細骨材の塩化物量		-		%水の種類	水道水 回収水(上澄み水)	目標スラッジ 固形分率		-	
回収骨材の使用方法		細骨材	-	粗骨材	-	スラッジ 水の使用量		-	

配 合 表 kg/m³

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
327	-	-	175	333	503	-	533	438	-	-	3.34	-	-	
水セメント比		53.5 %		水結合材比			- %				細骨材率			46.9 %

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。
 J I S 該 当 品

骨材混合比	砕砂：石灰砕砂 = 40：60
(容積混合)	砕石2010：1505 = 55：45

配合計算書

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 27	スランプ ^o 又はスランプ ^o フロー cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	- kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
(1)変動係数(v)		当工場の実績により v = 10.0 %			
(2)配合強度(m)		$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 1.250$ $m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8 \text{ N/mm}^2$ <p style="text-align: right;">よって m = 33.8 N/mm²</p>			
(3)水セメント比(W/C)		$m = -13.21 + 25.22 \times C/W$ $W/C = 25.22 \div (33.8 + 13.21) \times 100 = 53.5 \% \leq \text{【55\%(上限値)]}$ <p style="text-align: right;">∴ W/C = 53.5 %</p>			
(4)単位水量(W)		当工場の実績により W = 175 kg/m ³			
(5)単位セメント量(C)		$C = W \div (W/C) \times 100 = 175 \div 53.5 \times 100 = 327 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 327 \div 3.04 = 108 \text{ } \ell/\text{m}^3$			
(6)空気量(A)		A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m ³			
(7)単位粗骨材量(G)		当工場の実績により かさ容積 = 0.615 m ³ /m ³ 実積率 = 58.0 % $G_v = 0.615 \times 1000 \times 58.0 \div 100 = 357 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $G1 = G_v \times 55.0 \% = 196 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $G1 = G1v \times \text{表乾密度} = 196 \times 2.72 = 533 \text{ kg/m}^3$ $G2 = G_v \times 45.0 \% = 161 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $G2 = G2v \times \text{表乾密度} = 161 \times 2.72 = 438 \text{ kg/m}^3$			
(8)単位細骨材量(S)		$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 685 = 315 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S1 = S_v \times 40.0 \% = 126 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S1 = S1v \times \text{表乾密度} = 126 \times 2.64 = 333 \text{ kg/m}^3$ $S2 = S_v \times 60.0 \% = 189 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S2 = S2v \times \text{表乾密度} = 189 \times 2.66 = 503 \text{ kg/m}^3$			
(9)細骨材率(s/a)		s/a = S _v ÷ (G _v + S _v) × 100 = 46.9 %			
(10)単位混和剤量(Ad)		Ad = C × 添加率 = 327 × 1.020 % = 3.34 kg/m ³			

配 合 表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
327	-	-	175	333	503	-	533	438	-	-	3.34	-	-
水セメント比	53.5 %		細骨材率	46.9 %			骨材混合比 (容積混合)	砕砂：石灰砕砂=40：60 砕石2010：1505=55：45					
備考													

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

合田産業株式会社 福山工場
 広島県福山市箕沖町64番地
 TEL : 084-959-6383 ・ FAX : 084-959-6384

配合計画者名 森 康一

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本配合の適用期間	12月11日～3月10日 (冬期修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ [°] 又はスランプ [°] フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	- kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空気量	- %				

使 用 材 料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ O eq %	-	
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ O eq %	-
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ O eq %	-
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 区分 試験方法	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³ 絶 乾 表 乾	微粒分量の 範囲%
細骨材	①	砕砂	愛媛県今治市大三島町肥海	A 化学法	5以下	2.80	2.59 2.64	7.0±2.0
骨材	②	砕砂(石灰)	大分県津久見市上青江	A モルタルバー法	5以下	2.80	2.63 2.66	7.0±2.0
材	③	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(2010)	A 化学法	20～10	7.00	- 2.72	0.5±0.5
骨材	②	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(1505)	A 化学法	15～5	6.30	- 2.72	0.5±0.5
材	③	-	-	-	-	-	-	-
材	④	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①		マイティ1000S		AE減水剤(標準形 I 種)			Na ₂ O eq %	0.9
混和剤②	製品名	-	種類	-			Na ₂ O eq %	-
混和剤③	製品名	-	種類	-			Na ₂ O eq %	-
細骨材の塩化物量		-		%水の種類	上水道水 回収水(上澄み水)	目標スランプ [°] 固形分率	-	
回収骨材の使用法		細骨材	-	粗骨材	-	スランプ [°] 水の使用法	-	

配 合 表 kg/m³

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
327	-	-	175	333	503	-	533	438	-	-	2.22	-	-	
水セメント比		53.5 %		水結合材比			-				細骨材率			46.9 %

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。
 J I S 該 当 品 骨材混合比 (容積混合) 砕砂：石灰砕砂＝40：60
 砕石2010：1505＝55：45

配合計算書

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ ^o 又はスランプ ^o フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	- kg/m ³ 以下		単位材外量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
	空気量	-			
(1) 変動係数(v)			当工場の実績により v = 10.0 %		
(2) 配合強度(m)					
$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 1.250$					
$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 27 = 33.8 \text{ N/mm}^2$			よって m = 33.8 N/mm ²		
(3) 水セメント比(W/C)			$m = -13.21 + 25.22 \times C/W$ $W/C = 25.22 \div (33.8 + 13.21) \times 100 = 53.5 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$ $\therefore W/C = 53.5 \%$		
(4) 単位水量(W)			当工場の実績により W = 175 kg/m ³		
(5) 単位セメント量(C)			$C = W \div (W/C) \times 100 = 175 \div 53.5 \times 100 = 327 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 327 \div 3.04 = 108 \text{ } \ell/\text{m}^3$		
(6) 空気量(A)			A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m ³		
(7) 単位粗骨材量(G)			当工場の実績により かさ容積 = 0.615 m ³ /m ³ 実積率 = 58.0 % $G_v = 0.615 \times 1000 \times 58.0 \div 100 = 357 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $G1v = G_v \times 55.0 \% = 196 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $G2v = G_v \times 45.0 \% = 161 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $G1 = G1v \times \text{表乾密度} = 196 \times 2.72 = 533 \text{ kg/m}^3$ $G2 = G2v \times \text{表乾密度} = 161 \times 2.72 = 438 \text{ kg/m}^3$		
(8) 単位細骨材量(S)			$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 685 = 315 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S1v = S_v \times 40.0 \% = 126 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S2v = S_v \times 60.0 \% = 189 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S1 = S1v \times \text{表乾密度} = 126 \times 2.64 = 333 \text{ kg/m}^3$ $S2 = S2v \times \text{表乾密度} = 189 \times 2.66 = 503 \text{ kg/m}^3$		
(9) 細骨材率(s/a)			s/a = S _v ÷ (G _v + S _v) × 100 = 46.9 %		
(10) 単位混和剤量(Ad)			Ad = C × 添加率 = 327 × 0.680 % = 2.22 kg/m ³		

配 合 表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
327	-	-	175	333	503	-	533	438	-	-	2.22	-	-
水セメント比	53.5 %		細骨材率	46.9 %			骨材混合比 (容積混合)	砕砂：石灰砕砂=40：60 砕石2010：1505=55：45					
備考													